

第12回マーチング&バトンステージ・イン・オカヤマ 審査規定 ～バトン・カラーガードの音B～

1. バトン部門審査内容（全ての内容を 北田 有加先生が担当）

(1) 作品完成度

①実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ドロップやミスのない到達度の高い完成された作品 ・個々の責任意識が高く、グループプレーや協調性の高い演技 ・グループとしての同調性 ・正確なポジションワークと困難度あるステージングの展開 ・リズムやタイミングの統一性、多様性
②表現	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のテーマを主張した、視聴覚の調和された表現 ・フロア、立体、空間によるステージングデザイン ・ユニゾンやアンサンブル、ハーモニーのバランス ・観客への作品アピールやショーマンシップ ・プロジェクションや自信ある演技、リカバリー能力

(2) 全体的効果

①作品効果	<ul style="list-style-type: none"> ・明確なテーマとプログラムコンセプト ・集団美が活かされた作品 ・創造的で独創的な多様性あるプログラム構成 ・視覚と聴覚の一体性 ・衣装やプロップの色彩、デザインと作品との調和
②演技効果	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の理解、解釈 ・音楽の理解、解釈 ・バトンとボディーワークによるデザイン ・フロア、立体、空間によるデザイン ・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク ・ミュージカルティ、観客への作品アピールやコミュニケーション

(3) パフォーマンス

①バトン トワーリング	<ul style="list-style-type: none"> ・バトンテクニックの正確さ、優秀さ ・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性 ・トワーリングの多様性、困難度 ・エフェクティブなバトンの使い方 ・集団演技の複雑性 ・トワーリングリズムと音楽リズムの調和 ・バトンとボディーワークやステージングの困難度ある組み合わせ
②ボディーワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディーワークの正確さ、優秀さ ・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性 ・ボディーワークの多様性、困難度 ・エフェクティブな動きやアングル

	<ul style="list-style-type: none"> ・集団演技の複雑性 ・ダンスリズムと音楽リズムの調和 ・ボディーワークとバトンやステージングの困難度ある組み合わせ
③ステージング	<ul style="list-style-type: none"> ・ムーブメントの正確さ ・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性 ・スムーズで困難度あるフォーメーションの展開 ・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク ・フロアと立体、空間のステージングデザイン ・フロアデザインと音楽の調和 ・ステージングとバトンやボディーワークの困難度ある組み合わせ

2. Div1 の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 各内容(1)～(3)についてA～Eの5段階評価をし、
Aが5点・Bが4点・Cが3点・Dが2点・Eが1点に
換算し、その合計点を集計する。その後 15 点満点を100点満点に換算
(20/3 倍して、小数点以下四捨五入の整数値)
- (3) 100 点満点中、75 点以上を金賞、74 点～55 点を銀賞、
54 点以下を銅賞とする。
- (4) 同一カテゴリーで複数団体のエントリーがあった場合、もっとも
優秀な1 団体に審査員特別賞を授与する

3. Div2 の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、申告時間を遵守すること。
- (2) 審査方法は、Div1 に準ずる。(評価あり、点数なし)
- (3) 同一カテゴリーに複数団体のエントリーがあった場合、もっとも
観客を魅了したと判断された1 団体にフェスティバル賞を授与する。

4. カラーガード部門の講評内容は

- (1) 全体的効果 篠原 修先生
- (2) ボディーワーク 北田 有加先生(予定)
- (3) カラーガードの技術 山崎 浩先生
(全員持ち点5点)とする
- (4) Div1 では 15 点満点中、バトンと同様に 100 点化して、金銀銅賞を決める。
同一部門から2団体以上の出演があった場合、最も優れた団体に審査員特別賞
を授与する。
Div2 はバトンの Div2 の審査に準ずる

※すべての部門でICレコーダ審査を行う。